

NC 家族・人口変動のもとでの世代間関係の変容 と福祉レジーム



人文社会

Keywords エイジング、ライフコース、発達



安藤 究 准教授

所属 人間文化研究科 社会と協働分野

専門分野 社会学

所属学会 日本社会学会、日本家族社会学会、関東社会学会、東海社会学会 他多数

HP <http://www.nagoya-cu.ac.jp/human/index.html>



研究概要

平均余命の伸長と合計特殊出生率の低下は、「相対的に多くの孫と、相対的に短い期間成立する祖父母－孫関係」から、「相対的に少ない孫と、相対的に長期間成立する祖父母－孫関係」へと世代間関係の構造を変化させました。さらに、「家制度から夫婦中心の家族へ」「家族の個人化」という家族変動によっても、自明とされていた祖父母のスタイルは大きな変容を遂げています。本研究ではこの変容しつつある世代間関係について、家族・人口変動に加えて福祉レジームの影響を検討し、国際比較のもと考察します。

関連する論文

- Ando, K. 2005, Grandparenthood: Crossroads between gender and aging, International Journal of Japanese Sociology, 14: 32-51.

今後の展望

国際比較のもとステレオタイプ的な祖父母イメージを相対化しつつ、人口学的条件の変化や家族変動のもとでこそ可能となるような、新たな世代関係の方向性を探って行きたいと考えています。

問い合わせ

社会連携センター（桜山キャンパス本部棟2階／事務局学術課内）

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
（名古屋市営地下鉄桜通線「桜山」駅③出口すぐ）
☎ 052-853-8041 FAX 052-841-0261
✉ ncu_renkei@sec.nagoya-cu.ac.jp



関連する著書



安藤 究, 「ライフコースの変容と『祖父母であること』」松信ひろみ 編著『近代家族のゆらぎと新しい家族のかたち【第2版】』八千代出版, 2016年, 117-139頁



安藤 究, 「祖父母のタイプとライフスタイル」, 『ライフスタイルからみたキャリア・デザイン』ミネルヴァ書房, 2014年, 159-174頁



研究者からのメッセージ

ミクロレベルでの世代間関係を材料としながら、ミクロレベルでの要素の作用だけでなく、マクロレベルでの変化がどのような影響を与えるかについても留意しつつ、検討作業を進めて参りたいと思っています。